

No	大区分	サービス	ターゲット	作業内容	削減度	TA対応	CE対応	確認方法	確認及び対応作業の手間
1	利用中のリソース最適化	EC2	Running Instance	起動中のInstanceを、適切なタイミング(土日祝/夜間)で停止する	A	—	—	土日祝/夜間に停止が可能か担当者に確認	運用責任者との連携が必要なため確認の難易度は比較的高いが作業はCAの設定のみ。ELBとの関係性も合わせてチェックの必要あり
2			Reserved Instance	無停止で利用するInstanceでは、Reserved Instanceを購入する	A	○	◎	常時起動のEC2 Instanceを確認	Cost ExplorerのRecommendationsを利用すれば確認は容易であり、また購入作業も容易である
3			Instance Type	利用中のInstance Typeを、適切なCPU&Memoryのそれに変更する	A	○	◎	Cost Explorerで最適化の推奨案を確認	Cost ExplorerのRecommendations (Resource Optimization)を利用すれば確認は容易である。変更には停止を伴うため作業調整が必要
4			Attached EBS Volume	利用中のVolumeの空き容量を確認し、それを適切なサイズに縮小する	A~C	—	—	利用中のVolumeの空き容量を確認	確認は容易だが、業務の停止に加え作業が煩雑のため、難易度は高い。効果は削減される容量に依存する
5		RDS	Available DB.Instance	起動中の検証環境用DB.Instanceを、適切なタイミング(土日祝/夜間)で停止する	A	—	—	土日祝/夜間に停止が可能か担当者に確認	運用責任者との連携が必要なため確認の難易度は比較的高いが作業はCAの設定のみ。検証環境において実施を想定
6			DB.Instance Type	利用中のDB.Instance Typeを、適切なCPU&Memoryのそれに変更する	A	—	—	CloudWatch or Zabbixでリソースを確認	一定期間の監視が必要であり、業務の停止も必要となるため難易度は少々高い
7			Storage	利用中のStorageの空き容量を確認し、それを適切なサイズに縮小する	A~C	—	—	利用中のStorageの空き容量を確認	確認は容易だが、業務の停止と作業の手間がかかるため、難易度は高い(データベース間のデータ移行作業が発生するため)。効果は削減される容量に依存する
8			Multi-AZ Option	本オプションが不要であるのにも関わらず付与されている場合はそれを外す	B	—	—	運用とRDSのOptionを確認	設計及び運用上不要と判断できれば変更は容易。基本的には本番環境で有効とする。なおAuroraの場合はReadReplicaを削除する対応となる
9			Reserved DB.Instance	無停止で利用するDB.Instanceでは、Reserved Instanceを購入する	A	—	○	常時起動のDB.Instanceを確認	Cost ExplorerのRecommendationsを利用すれば確認は容易であり、また購入作業も容易である
10		WorkSpaces	Bundle	利用中のWorkSpaceを、適切なBundle/Running Modeに変更する	B	—	—	CloudWatchの確認、及びWorkSpace利用者への確認	Modifyを利用することで容易に実現可能。変更時に一時的にWorkSpaceが利用不可となるため静止点の調整が必要
11		Redshift	Cluster/Node	利用中のNodeを適切なClassに変更もしくは、Node数を減少させる	A	—	—	各Nodeの利用状況を確認	現場に利用状況の確認が必要であるが、Node数の変更はElastic resizeにて容易に行える
12			Reserved Node	長期間利用が決定しているNodeはReserved Nodeを購入する	A	—	○	常時起動されているNode数を確認	Cost ExplorerのRecommendationsを利用すれば確認は容易であり、また購入作業も容易である
13	未使用リソースのリリース	EC2	Stopped Instance	一定期間以上連続で停止状態のInstanceを、AMIを取得後にVolumeと共にそれを削除する	B~C	—	—	期間(1週間等)を定め、それを超える期間停止状態のInstanceを確認	比較的容易。効果は削減されるEBS Volumeの容量に依存する
14			Detached EBS Volume	Available状態のVolumeを、内容を確認の後、必要があればSnapshotを作成後に削除する	B~C	○	—	Available状態のVolumeを確認	容易に可能。効果は削減されるEBS Volumeの容量に依存する
15			Snapshot(AMI)	一定期間以上経過したSnapshot(及び紐づきのあるAMI)を、不要な場合はそれを削除する	B~C	—	—	期間(作成後60日等)を定め、それを超えるSnapshotを確認	確認が少々難しいが、作業は容易。効果は削減されるSnapshotの容量に依存する(AMIは無料のため)
16			Elastic IP	遊離状態のElastic IPが、未使用状態であれば削除する	D	○	—	遊離状態のElastic IPが存在するか確認	容易に可能
17			ELB	未使用状態のELBが存在する場合、それを削除する	C	○	—	未使用状態のELBが存在するか確認	容易に可能
18		RDS	DB.Instance	未使用状態のDB.Instanceが存在する場合、それを削除する	A	○	—	未使用状態のDB.Instanceが存在するか確認	容易に可能
19		DynamoDB	Table	未使用状態のTableが存在する場合、それを削除する	C	—	—	未使用状態のTableが存在するか確認	容易に可能
20		S3	Objects	不要なObject (もしくはBucket) が存在する場合、それらを削除する	C	—	—	不要なObject (Bucket) が存在するか確認	確認が少々難しいが、作業は容易。効果は削減される容量に依存する
21		VPC	VPN Connection	不要なConnectionが存在する場合、それを削除する	C	—	—	不要なConnectionが存在するか確認	容易に可能
22		WorkSpaces	WorkSpace	未使用状態のWorkSpaceが存在する場合、それを削除する	A	—	—	CloudWatchにて長期間未使用のWorkSpaceが存在するか確認	比較的容易
23		Redshift	Cluster/Node	未使用状態のRedshift Nodeが存在する場合、それを削除する	A	○	—	未使用状態のNodeが存在するか確認	比較的容易